

図4図は第4の発明の構成を明示するための全
は構成図である。

[illegible][illegible]

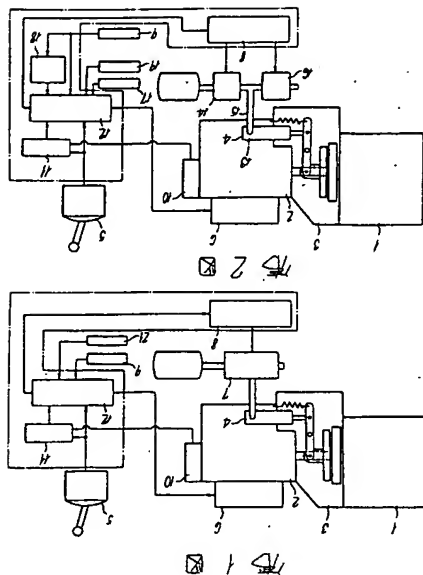
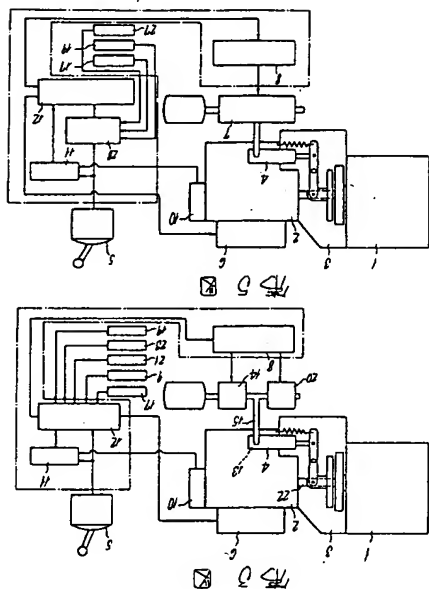
第6回は第6の発明の構成を明示するための金

[illegible][illegible]

第7図には本発明の一実施例としての自動変速

[illegible][illegible][illegible]

に応じた抵抗変化を電圧値として生じさせ、これ



44-38860-215435(11)

異なる発見によれば、緊要時において、迅速な
 変化を上回り、ブレーキを踏むおよびクラッチ降
 車を伴うないような制動プログラムを編みだす
 作業は、エンジン時に必ずエンジンを止頓断は合
 成に保持して、エンジンプレーキを必ず併用で
 る利点がある。

類々の発明にみれば、アチユエーラの不作為が、
即ち、クラウチの陰謀に、クラウチのすべり
を賣出し、この面が決定點を上つた点でク
ラウチ發明の出力を出力して、彼發明者としての
ラッヂ發明者「ア」7は是れを、クラウチの勝
つてラッヂ發明者「ア」7を是れとせ、クラウチを
が大であることを表出せる。特にクラウチを
より後に自動的に原し操作する手段を用ふる
ラッヂではそのすべりをマニュアル式、クラウチの
うに運動者が決定せず、本発明は有能である。
お、彼發明者として、これはのアダマーを用
てもよい。

面の簡単な説明

第1回乃亞第6回は第1より第6までの各兄弟

朝鮮手段、9……角座センサ、10、70……摩耗計
 摩耗手段、11……適合判別手段、12……切創制御手
 段、13、48……エプア、15、47……通板、17、50……
 血液センサ、18、43……クラッチ摩擦センサ、21、
 35、36……四速センサ、22、44……クラッチの出力検
 知手段、23、45……クラッチ摩擦センサ、24……エンジン
 操作手段、25……駆速区分判別手段、26……駆速
 判定手段、27、82……ブレーキセンサ、28……
 切創禁止手段、29……切創判別手段、30……切創判別



代理人 佛山

んとクラッパツの出力増大の間の電圧調整の単位時間短縮の必要を要する。この場合、電圧調整の速度は電圧変動の割合に比例して増加するから、電圧変動の割合が大きいほど電圧調整の速度も速くなる。これは、電圧変動の割合が大きいほど電圧調整の速度も速くなる。これは、電圧変動の割合が大きいほど電圧調整の速度も速くなる。

[illegible][illegible]

1,30……エンジン、2,32……変速機、3,31……クラッチ、4,42……エ7シリンダ、5,55……変速機、6,51……ギヤ位置切換手段、7,14,16,20,48,50……開閉手段、8……クラッチ

图4

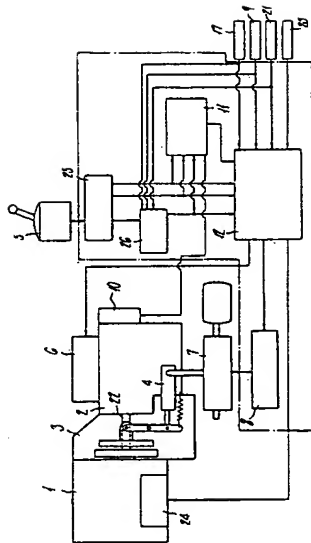
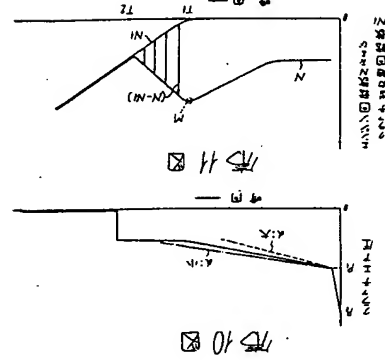
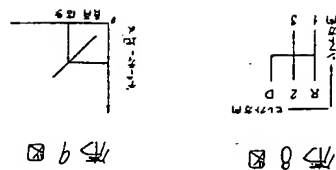
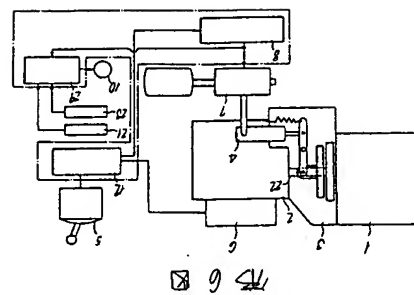
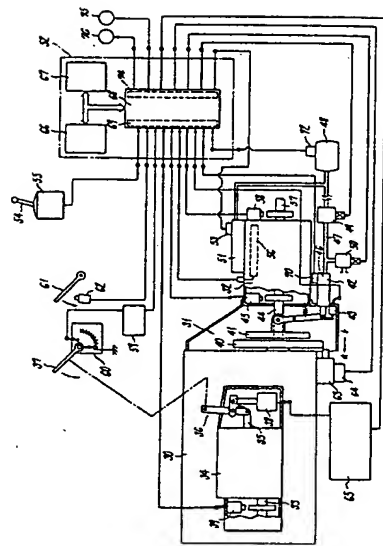
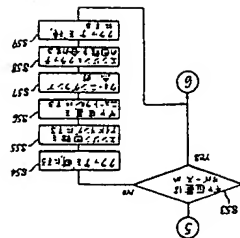
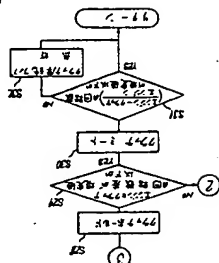


图7

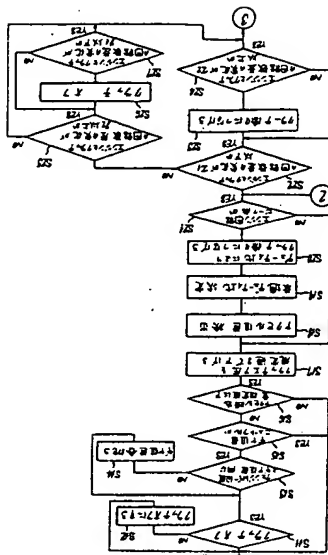




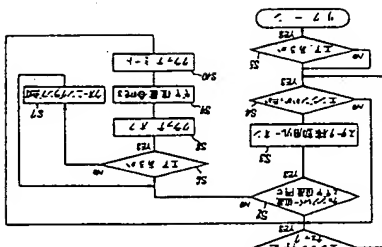
18 (a)



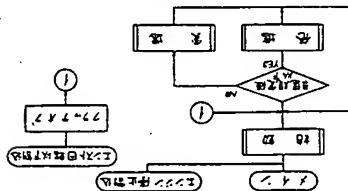
18 (b)



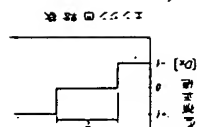
18 (c)



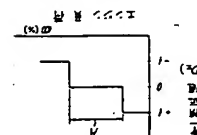
16



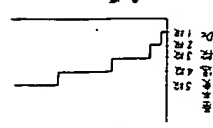
17



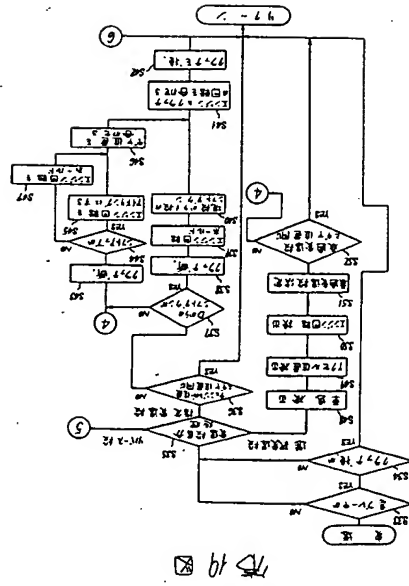
14



15



16



(1) 明細書第13頁第7行の「33には」の次より同頁9行の「連続される」の間までを削除し、「電圧アキュエータ33が」を代入する。
(2) 図面中第7面を添付図面のように訂正する。

特許第50-215435(17)

昭和50年5月17日

特許庁長官 通知 第50-215435(17)

1. 案件の表示

昭和50年特許第50747号

2. 発明の名称

自動風速検出装置

3. 補正する事項

事件との関係 特許出願人

名称 (522) 三菱自動車工業株式会社

4. 代理人

住所 東京都豊田区瑞穂4丁目5番4号

氏名 (572) 神山

5. 補正の対象

明細書の「発明の目的(図面)」の欄および図面

6. 補正の内容

方式 (542) 審査